



DF NEWS DF ニュース 2014年6月号

地域交流牧場全国連絡会 フェイスブック・ホームページについて

吉田副会長と各ブロックの担当者により、本会のフェイスブックが続々と更新されています。ブロックや会員牧場の活動状況や酪農に関する最新情報など、楽しくてタメになる情報がいっぱい。ホームページからもフェイスブックがご覧になれますので、ぜひ覗いてみてください。

『交牧連』で検索!
▼ <http://www.dairy-farm.jp/>



MILK JAPANホームページ 「だいすき おはなちゃん」に三井さんが登場!

「牛乳が日本を元気にする」MILK JAPANのホームページで5月から始まった「だいすき おはなちゃん」コーナーで、本会会員の三井牧場（香川県）の「おはなちゃん」（生後約3カ月のメス牛）と三井亜由美さんが紹介されています。毎週金曜日に更新される大人気コンテンツ! 「おはなちゃん」の成長の様子をぜひご覧ください。
『ミルクジャパン』で検索!
▼ <http://www.milk-japan.net/pc/>



全国研修会の開催について

平成26年度の全国研修会は東北地域で以下のとおり開催予定です。今後、理事会や東北ブロックで具体的な内容について協議を行い、会員の皆さまに詳細をご連絡いたします。多数のご参加をお待ちしています!

- 開催日** 平成26年11月23日(日)～24日(月)
- 開催場所** 宮城県松島町等(予定)
- プログラム(案)**
 - ①基調講演「被災地での酪農体験の役割について」(仮題)
11月23日(日) 講師：筑波大学附属小学校 加藤宣行教諭(淑徳大学・筑波大学講師 兼任)
13:30～20:00
 - ②パネルディスカッション「酪農教育ファームの効果の多様性について」(仮題)
パネラー：小学校教諭、酪農家 各数名
助言者：加藤宣行教諭
コーディネーター：西田敦子理事
 - ③被災した酪農家からの報告・意見交換
 - ④交流会(東北ブロック会員牧場産食材等を活用した料理を提供)
- 11月24日(月) 被災地視察または会員牧場の視察等
9:00～12:00
- 参加費** 15,000円(1人あたり)を予定
(23日の宿泊代、交流会費用、24日の朝食、昼食代等を含む)



事務局からのご挨拶
本年4月より中央酪農会議での人事異動に伴い、連絡会の事務局長をやらせて頂くことになりました寺田です。
連絡会には、設立時の平成11年から約2年間担当させて頂きました。10年振りに携わることになりましたが連絡会の更なる飛躍に向けて、精一杯お手伝いさせて頂きますので宜しくお願い致します。



特集：平成26年度 代議員会を開催

全国研修会のお知らせ・ホームページの紹介



会長のあいさつ

廣野正則(広野牧場・香川県)

本日はお忙しいところお集まり頂きましてありがとうございます。
地域交流牧場全国連絡会は設立15年目を迎えます。近年は生産戸数や生産量の減少をはじめ、いろいろな問題が出てきています。
そのような状況のなか、地域交流牧場全国連絡会の活動を通じて、様々な意見や情報それぞれの地域に持ち帰り、地域から酪農を元気にして頂きたいと願っています。
皆様方の頑張りが日本酪農の将来を明るくすると考えています。



発行日：2014年6月 発行/地域交流牧場全国連絡会 〒101-0044 東京都千代田区新地2-6-1 専攻七ビル4階(一社) 中央酪農会議内
TEL:03-6888-8841 FAX:03-6881-9295 ホームページ:DF NEWS <http://www.dairy-farm.jp/>

平成26年度地域交流牧場全国連絡会

代議員会を開催

日時:平成26年5月22日(木)13:30～ 場所:クリエクロス神田(東京都)

5月22日(木)に、平成26年度(第15回)代議員会を東京都で開催しました。代議員、理事及び関係者が約60名集まり、平成25年度の活動報告及び収支決算、平成26年度の活動計画及び収支予算について審議、承認されました。

また、本会で団体加入している各種保険制度の概要について齋藤氏(全農ビジネスサポート)から具体的な事故事例等を交えてお話しして頂きました。最後に農林水産省消費・安全局動物衛生課齊藤係長より、牧場で消費者交流活動を実施する際の飼養衛生管理基準を踏まえた防疫対策についてお話し頂きました。

来賓あいさつ

生乳生産量は、年々減少しています。皆様にはご苦労をされているところかと思いますが、需要に応じた生産が出来るようにご努力を頂ければと思っています。酪農について理解してもらうためには、皆様のような交流の取り組みは重要だと考えています。一步一步積み上げて来て頂いた消費者との信頼関係が今の酪農の支えになっていると思います。



齋藤 宗高氏
農林水産省生産局畜産部
牛乳製品課課長補佐

最近の酪農情勢としては、餌高もあり、生乳生産基盤の弱体化が深刻化しています。本会議としては、24年度から3年間は減産しない方向で計画生産を推進しています。地域交流牧場全国連絡会の会員牧場は、消費者に顔の見える活動を行う上で、理解醸成活動の重要な地域拠点であると考えています。本会議としても交流連をはじめ、関係団体と連携しながら理解醸成活動を積極的に展開して参りたいと思っています。



迫田 潔氏
(一社)中央酪農会議
専務理事

25年度活動報告(抜粋)

- 1 全国研修会の開催とワールドデイリーサミット等への積極的な参加**
東京で全国研修会を開催。さらに、ワールドデイリーサミット2013へ参加し、世界の酪農乳業関係者との交流を図った。
- 2 東日本大震災被災地への支援**
東北の小学校3校で「モーモースクール」(出前型酪農体験)を実施。
- 3 新規会員の獲得及び後継世代の育成**
「新人研修会」と「クラブ・ユース事業」について協議するため、検討会議を開催した。
- 4 防疫対策の推進**
消費者に対して注意喚起を徹底するとともに必要な情報を積極的に発信した。
- 5 ホームページ・DFニュースによる情報提供**
ホームページでは新たなコンテンツを整備し、消費者へ本会の活動を広げ、また、会報誌DFニュースを3回発行した。
- 6 関係団体との連携**
指定団体等と連携し、消費者交流活動に積極的に参画した。
- 7 部会毎の取り組み**
交流部会、製造部会、広報部会ともに全国的な活動方針に沿って、ブロック毎に研修会の開催等の活動を活発に行った。
- 8 ブロック活動の充実**
指定団体等の協力を得ながら、ブロック会議や専門部会活動の充実を図った。

26年度活動スローガン

- つなぐ** … 全国的なネットワークを活かした相互研鑽や交流
続ける … 酪農教育ファーム等の社会貢献活動
育てる … 酪農後継者と酪農理解者の育成

26年度活動計画(抜粋)

- 1 全国的なネットワークを活かした相互研鑽や交流**
全国研修会の開催
- 2 酪農教育ファーム等の社会貢献活動**
①東日本大震災被災地への支援
②ブロック活動の充実
- 3 酪農後継者と酪農理解者の育成**
①クラブ・ユース事業の実施
②新規会員の獲得
③酪農理解獲得とホームページ・DFニュースによる情報提供
- 4 その他(事業を円滑に推進するための活動)**
①防疫対策の推進
②活動ツールの共同作成・購入の検討
③経費節減と予算の適正執行

審議議案

- 第1号議案:平成25年度(第15年度)活動報告・収支決算について
第2号議案:平成26年度(第16年度)活動計画・収支予算について
第3号議案:平成27年度の代議員数について
第4号議案:施設所有者賠償責任保険の構内専用工作車危険補償特約について

ブロック活動報告(抜粋)

ブロックの活動報告では、各ブロック代表の理事と代議員から25年度の活動内容と、その成果と課題について報告があった。

北海道ブロック

- 北海道ブロック消費者交流部会フォトコンテストの実施
- 北海道ブロック製造流通部会研修会の開催



橋本 千子理事

東北ブロック

- 被災地支援事業「モーモースクール」を全国と連携して東北ブロック3校で実施
- 製造・広報に関する研修会の開催



小沢 正理事

関東ブロック

- 「わくわくモーモースクール」を都内3校で実施
- NHKイベントへの協力参加



人見 幸雄理事

北陸ブロック

- ブロック研修会(牧場とジェラート製造施設の視察)の開催
- 東海ブロック研修会への参加



藤田 毅理事(監事)

東海ブロック

- ブロック研修会の開催(教育現場からの事例発表、ミルク料理講習)
- 第一回ミニ研修会の開催(牧場での防疫対策について)



小笠原 和美理事

近畿・中国・四国ブロック

- 乳製品のディスプレイ及び6次産業化の勉強会の開催
- 牧場視察及び意見交換会の実施



花房 享一郎理事

九州ブロック

- 「わくわくモーモースクール」を小学校と保育園の2か所で実施
- 佐賀パルーンフェスタにてバター作り体験を実施



竹中 千恵子理事

質疑応答&意見交換

- Q. [第1号議案] 25年度収支決算「復興支援事業の内訳」について。
A. 岩手・宮城連続実施分で約250万円、福島実施分で約200万円(事前打合せ経費等をそれぞれ含む)という内訳。各ブロックから直接支出した分が50万円程度であるので、中央会計には約400万円が計上されている。
- Q. [第2号議案] 26年度のクラブ・ユース事業予算75万円の内訳について。クラブ・ユース事業に可能な限り重点を置いて欲しい。
A. 6月25日にクラブ・ユース検討会議を開催予定であり、25万円はその出席者旅費。残りの50万円については、研修等の費用を想定している。会の継続と併せて、牧場後継者の育成は大事なことでありと認識している。
- Q. [第2号議案] 26年度のスローガンの『続ける』(社会貢献活動)について、一般社会や教育界との結びつきが不可欠になると考える。特に酪農教育ファーム活動等のこれまでの成果を検証し、対外的に発信することも重要である。
A. 地域の特色ある成功事例を中央にあげてもらい、検証を行った上で、対外的に発信していきたい。
- Q. [第3号議案] 27年度の代議員数について、各ブロックで減少が見られる中、東北ブロックでの増加の要因について。
A. 会員牧場と指定団体等の努力の賜物。横の繋がりによる情報発信によるものだと考えている。
- Q. [第3号議案] 27年度の代議員数について、会員減少(脱退)の理由は何か。
A. 口蹄疫等の感染症の脅威による交流活動の中止という理由が多い。
- Q. 本会のニックネーム(愛称)を考えてはどうか。
A. 消費者への本会のPRや会員拡大をする上でニックネームは有効だと思うので、今後広く意見をもらいたい。

